数学教育における「学校知」の形成過程に関する実証的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Otani, Minoru メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00066318

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

数学教育における「学校知」の形成過程に関する実証的研究

Research Project

All

Project/Area Number

06780149

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Science education

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

大谷 実 金沢大学, 教育学部, 助教授 (50241758)

Project Period (FY)

1994

Project Status

Completed (Fiscal Year 1994)

Budget Amount *help

¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)
Fiscal Year 1994: ¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

Keywords

学校知 / 授業過程 / 数学教育

Research Abstract

本研究は,数学の授業において「学校知」が形成されてゆくプロセスの一端を,実際の授業を観察し,そこにおいて反復して生起する社会的相互作用のパターン,あるいはそのパターンの背後にある暗黙のルールを記述するとともに,そのような組織的なパターンが教師と生徒の相互作用的作業によって安定したルーティンとして社会的に構成される過程を,構成的エスノグラフィーという方法論を用いて実証的に明らかにすることを目的とした。

この目的に鑑み,金沢大学附属小学校第一,第四,第五学年の算数の授業を週3回,第三学期のみ非参与観察をする。各授業をビデオ記録し,各授業ごとにそのプロトコールを作成した。分析方法は,まず,2か月間の授業のプロトコールから,特に教師が相互作用を執拗にネゴシエ-トする場面や,生徒の授業参加をする上でのルール違反が制裁される場面に注目しながら「学校知」の特質とその形成過程に関する仮設を抜き出した・次に,これらの仮設を以後の授業の相互作用において説明できるかを吟味しながら、当初の仮設を修正,棄却しながらより妥当性のある命題に洗練していった。その結果,それぞれのクラスにつき、「学校知」の形成上,影響があると考えられる教師と児童との相互行為の特徴の一端が見いだされた。

Report (1 results)

1994 Annual Research Report

Research Products (1 results)

All Other

All Publications (1 results)

[Publications] 大谷 実: "一斉授業における数学的活動のエスノメソドロジー" 第27回数学教育論文発表会論文集. 227-232 (1994)

URL: https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-06780149/

Published: 1994-03-31 Modified: 2016-04-21